



2

# 財務部 管內經濟情勢報告

管内経済は、総じて停滞感はあるものの、明るい動きが広がってきており、先行きに対する期待感が高まっている。

最近の管内経済情勢をみると、  
公共事業が前年を下回つてゐるほか  
十一年度の企業の設備投資も前年  
を大幅に下回る計画となつてゐる  
ものの、個人消費は総じて底堅い動  
きとなつてあり、住宅建設は前年を  
やや上回つてゐる。  
こうした中、産業活動では、觀光  
は引き続き好調に推移しており、十  
一年度の企業収益も大幅な増益見  
通しとなつてゐるほか、生産は持つ  
直しの動きが広かりつつある。なお、

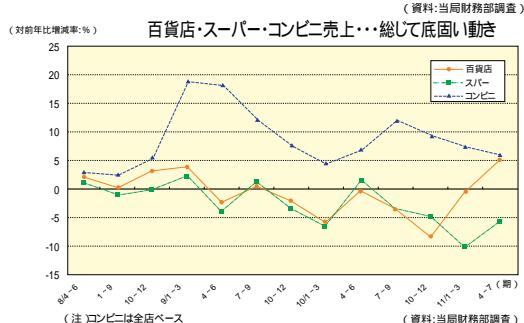
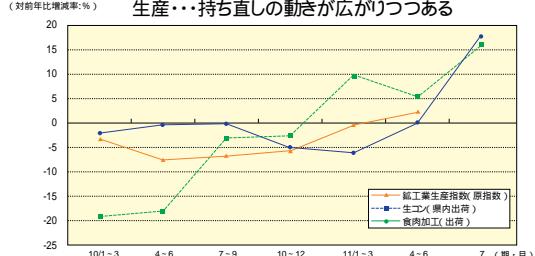
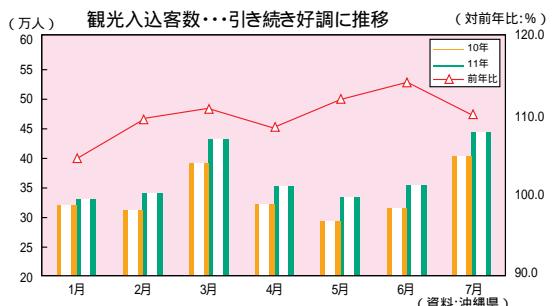
平成十一年九月、財務部では管内経済情勢を次のとおり取りまとめました。

雇用情勢は完全失業率が高水準で推移しており、依然として厳しい状況となっている。

このように、管内経済は、総じて停滞感はあるものの、明るい動きが広がってきており、先行きに対する期待感が高まっている。

産業活動をみると、建設関連業種では、棒鋼、アルミ型材は県内出荷に動きがみられるほか、セメント、生コンは引き続き順調に推移している。また、食料品では、ピールは低調に推移しているものの、発泡酒、泡盛が順調なほか、食肉加工品は堅調な動きとなっている。このように生産は持ち直しの動きが広がりつつある。

観光についてみると、観光入込客が旅行商品の低価格化や航空路線の増便・開設効果などもあって過去最高の水準となるなど、引き続き好調に推移している。



企業収益(石油、電気、ガスを除く)をみると、十一年度上期は、前年同期に比べ、製造業、非製造業とも大幅な増益見込みとなつており、また十一年度下期でも、製造業、非製造業とも大幅な増益見通しどうてある。

企業倒産は、大型倒産の影響で負債金額は前年を大幅に上回っているものの、件数は前年を大幅に下回っている。

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、貸家で前年を下回っているものの、持家及び分譲住宅が住宅戸一戸減税の効果などにより前年を上回っていることから、全体としては前年をやや上回っている。

消費者物価は、引き続き安定した動きとなつてゐる。金融面をみると、企業の資金需要は、設備資金、運転資金とも前年をやや下回つてゐる。

その他の公共団体で前年を大幅に下回ったことから、全体では前年を下回って推移している。

き続き低水準で推移している。このように、雇用情勢は依然として厳しい状況となつてゐる。